



# いま伝えたいこと

健和会臨床看護学研究所長 川嶋みどり  
日本赤十字看護大学名誉教授

## 看護の立場から 薬以外の方法は

再度の緊急事態宣言、タ  
イミングも内容も選れはせ  
の小出し、コロナ禍が始ま  
ってから一度たつて「本当  
にぞらな」と共感したこ  
とのない政権中枢の説明。  
重症患者とベッド占有率が  
週日報道され、お産や他疾  
患での入院すら危ぶまれパ  
ンクす前の病棟。加えて変  
異株の出現で高まる緊張。  
後遺症が長びき完全治癒に  
はかなりの日数を要するの  
も気になります。未だに検  
査したくても応じてもらえ  
ず、発症しても入院の保障  
のないことへの対策抜き  
に、入院拒否者に刑事罰と  
はまさに本末転倒。医療崩  
壊が現場のものになってい  
る今、全ての医療機関と医  
療従事者への財政的支援策  
は、国民のいのちと直結す  
る喫緊の重要課題。ワクチ  
ンが全国民に行きわたるま  
では時間がかかり治療薬  
も開発途上すれば、無症

状感染者をいち早く発見し  
て保護するために検査数を  
増やすことは国の責務で  
す。  
「生命のトリアージ」  
「集中治療を譲る意識カー  
ド」の提案などは、COV  
ID-19感染症が高齢者に  
とって致命的であることか  
らきています。いのちの重  
さは平等、死ななくてもよ  
いいのちを守り医療現場の  
負担を減らすためには、何  
れにしても重症化を防いで集  
中治療室に入らずに済む方  
策を真剣に考える必要があ  
ります。医学的にはかなり  
の症例を重ねて一定の治療  
法も編み出されたこと思  
います。看護の立場からも  
手を拱いているわけには参  
りません。経験知を駆使し  
て薬以外の方法で重症化を  
防ぐ手立てはないでしょ  
うか。ヒントはありました。  
昨年夏の終わりに公開され  
た複数のコロナICU病棟  
で、防護衣に身を固めた数  
名のスタッフらが人工呼吸  
中の患者さんを「腹臥位」

た。先生はご自分の体験を  
通して健康長寿の秘訣とし  
ても腹臥位で休むことを推  
奨されていました。研究会  
では、重篤な「急性呼吸不  
全」の患者に20分間の時  
間の範囲で腹臥位をとらせ  
ることでPaO<sub>2</sub>(動脈血酸  
素分圧)値が上昇し、肺胞  
の再拡張によって人工呼吸  
器も気管挿管も不要となっ  
た例の報告もありました。  
呼吸改善効果は下側肺腫瘍  
患者に対して著明です。そ

にしては映像に。K大学  
病院の担当医は「エグモや  
薬でも改善しない重症患者  
への自然治癒力に期待して  
腹臥位療法を実施、6人中  
5人の重症者が回復退院し  
た」とのコメントも。

## 故日野原先生も 「腹臥位療法」推奨

「腹臥位療法」について  
は、故日野原重明先生こと  
ともに17年間にわたって研  
究・推進を図ってきました。

# 熱布バックケアと腹臥位が ワクチンや治療薬と並ぶ力に ワクチンや治療薬と並ぶ力に

## 背中に熱いタオル で症状緩和

一方、私は、COVID  
-19以前の臨床看護の様相  
が、余りに医行爲に傾きが  
ちであることから、看護独  
自のケアとして「熱布バッ  
クケアプロジェクト」を立  
ち上げていたところでした。  
熱布バックケアは、背  
中全体を熱いタオルで15分  
ほど蒸した後マッサージを  
します。皮膚を介する温熱  
刺激で種々の症状緩和の  
他、食欲を引き出し腸胃意  
欲の増進を図ることもでき  
ます。最大のメリットは始  
めから終わりまで何とも言  
えない気持ち良さか体験で  
きることです。呼吸面では、  
自然に深呼吸ができて  
痰が出やすくなります。従  
って、COVID-19の呼  
吸器症状に腹臥位が有用で  
あるとすれば、併せてこの  
熱布バックケアを実施すれ  
ば、相乗効果をもたらすは  
ず。挿管や人工呼吸器装着  
の苦痛や不安、孤独と闘っ  
ている患者さんを腹臥位に  
して背中に熱い蒸したタオル  
を当てた時の反応が目に見  
えます。とはいえ、良い

れは、腹臥位で背中を上  
(天井側)に向けることで  
①背側に溜まった分泌物を  
移動させ②健全な腹側の肺  
胞の活用により血流促進③  
(仰臥位時に)横隔膜の拡  
張運動を妨げていた腹臓  
器の圧迫解除と背側肺胞の  
換気の増加(丸川、201  
6)によります。昨今で  
は、世界各国のCOVID  
-19症例を多く扱っている  
施設の症例報告でも腹臥位  
管理が効果的な方法である  
ことが示唆されています。

とわかっていても、厳しい  
職場環境を知っている立場  
と自分が現場に出られる案  
件のなさから躊躇が先立つ  
のでした。

## 呼吸を楽にする ワンセットケア

ところが、このためらい  
を二拳に吹き払う看護チー  
ムの存在を知りました。目  
下COVID-19感染症の  
最前線の都立大病院の中等  
症病棟の看護スタッフら  
が、呼吸症状のある非挿管  
患者を腹臥位にすることで  
挿管を回避し、集中治療室  
にも送らないで済ませたと  
いう実践報告が、日本呼吸  
療法学会学術集会以最優秀  
賞を受賞したのです。早速  
連絡をとって熱布バックケ  
アの併用を提案してみました。  
たら、第三波の患者増で病  
棟は嵐のような忙しさの中  
で実践し、感動的な場面を  
共有することが出来まし  
た。慣れない腹臥位をため  
らう高齢患者さんが熱布ハ  
ックケアにより、静かに腹  
臥位をとられるようになって  
きたか。これが院内に普遍  
化され病棟から全国に拡が  
れば、重症者はかなり減る  
のではないのでしょうか。

もはや限界にきている看  
護師の疲労感、それは「一  
ルの見通しのない状況下で  
の達成感のなさ」が大きな重  
担になっていると思われま  
す。熱布バックケアと腹臥  
位による「呼吸を楽にする  
ワンセットケア」で症状を  
緩和し、集中治療室を減ら  
すことができた医療崩壊  
を防ぐ上でのワクチンや治療  
薬と並ぶ看護の力と言いま  
しょう。  
水見出しは編集部